

晴天の週末に合わせるかのように、附近のサクラは満開を迎えた。市や観光協会などの主催する「桜まつり」は新型コロナ対策で中止となった。外出自粛を求められた人々のはげ口となったのか、近くの夙川公園や芦屋川では例年ほどではないが、花を訪ねる人の姿は結構多い。サクラは農耕の始め、学校や就職といった人生の節目を彩る花として、「花見」といった花を觀賞する文化として古くから日本人の心に沁みついているのであろう。今年は異常な暖冬で開花が早く「見ごろ」の時期が心配であったが、この地域では、満開！、新型コロナに関連した暗いニュースの多い中、ひと時の心の安らぎとなれば幸いである。

＊本報では提唱したサクラの枝を用いた「促成試験」のまとめをしておきます。（別紙参照）

最近のニュースで東北の雪国では切り花用にこの期にサクラの枝を切り、雪の中に埋め込んで置き晩春に出荷すると聞いた。また既報の正月から3月末までに出荷される「啓翁桜」についても、加温や低温保存で開花の時期を調整し出荷されているとの報文も出されている。（休眠打破後の）サクラ開花は温度に依存するという事実を業界では経験的に会得し利用して来ているのであろう。

この様に昔から採られてきている、促成法：（切り枝を20～25℃の恒温室内に置く）を利用すれば実際の開花に先立って色々な現象が見られるのではないかと始めたのが今回の「促成試験」であった。試験の方法は、極めて簡単、附近のサクラの花芽の付いた枝を頂戴して来てコップなどに生け暖かい室内に放置観察するというものであった。今回は「3月1日採取したソメイヨシノの枝」を用いて室内に置いたとき、その後の花芽や葉芽の展開の状況、および未展開芽（不動の芽：休眠打破されていない芽？）の存在を調べることにあった。

この試み自体が始めてであった為、色々な問題点も浮上してきた。

- ・サンプル枝：一応花芽と葉芽が20個以上のものを指定。（選定が難しかったかも）
- ・水切り：枝採取から時間を置くと水揚げしない。（特にヤマザクラ系は水切り必須であった。）
- ・水換え：水道水、5日～1週間に一度で良かった（35日間実績）。サンプル枝の多い場合は？
- ・成長過程での記録：花芽の膨れの基準が不明確。最近、気象予報会社が開花予報？に用いている区分を入手した（下図）。これを共有し数値化しておけば記録ももっと有意義なものとなったであろう。
- ・試験の限界：切り枝に貯蔵される養分（糖分？）に限界。花芽や葉芽には基本的に自前の養分で開花や展葉する能力がない。不完全の花の開花や、開花によって他の芽の成長が停止する現象が見られた。
- ・それでも、「休眠打破」の時期の推定、「休眠打破」が一時でなく順次であること、開花の時期の予見等得るところも多かった。今回の私の試験の結果を別紙に付けておきますので参照下さい。

今後h「水耕栽培法」「切り花の栄養剤」など参考に検討の余地もあるようです。以上

